

2025 年 10 月 28 日
ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社

Diamond & Zebra サステナビリティプロジェクトレポート

本レポートは DNV GL より 2022 年 8 月にセカンドパーティオピニオンを取得しましたサステナビリティファイナンスフレームワークを準用して、次の事項について年次レポートとして報告いたします。

1) 研究開発対象における 2024 年度研究開発費

項目	金額（百万円）
研究開発費	1,714
対象研究開発	
① 住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システム（注 1）	
② 産業用パワーコンディショナ及び蓄電システム（注 2）	
③ V2H(Vehicle to Home)システム（注 3）	

内、上記研究開発に充当した新株予約権（第 5 回及び第 6 回・割当日：2024 年 6 月 12 日）の権利行使による資金調達額は 21,776 千円となります。

2) プロジェクトの進捗状況

① 住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システム

次世代住宅向けパワーコンディショナ及び蓄電システムの更なる開発を進めており、下記のスケジュールで発売見込みです：

・ 上市時期: 2026 年 2 月予定

② 産業用パワーコンディショナ及び蓄電システム

蓄電システムについては市場状況を見ながら投入時期を見極めており、2028 年度上市に向け開発を進めております。

現在の市場に合わせた蓄電池が接続しない製品を、下記のスケジュールで発売見込みです：

・ 上市時期: 2025 年 11 月予定

③ V2H(Vehicle to Home) システム

発売の遅延がありましたが、下記のスケジュールで発売しました。

・ 上市時期：2025 年 8 月上市済

3) 環境改善効果

環境改善効果は生産開始時の想定設備能力を基に試算した推計値です。

① 住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システム

対象設備の生産能力に基づく CO2 削減効果：179,922t-CO2/年
蓄電容量：350MWh

② 産業用パワーコンディショナ及び蓄電システム

対象設備の設備能力に基づく CO2 削減効果：92,444t-CO2/年

蓄電容量：365MWh

③ V2H(Vehicle to Home)システム

対象設備の設備能力に基づく CO2 削減効果：0t-CO2/年

蓄電容量：0MWh

※24 年度時点では未上市のため、実績ゼロとしております。

(注1) 住宅向け次世代パワーコンディショナ及び蓄電システム：太陽光パネルで発電した電力を家庭で使える電力に変換する機器です。太陽光に加えて蓄電池の電力を利活用する機能を備えたものをハイブリッド型と呼びます。

(注2) 産業用三相パワーコンディショナ及び蓄電システム：一般家庭用向け（単相）に比べて多くの電力を送ることができる三相と呼ばれる電気に対応し、産業用途などの利活用シーンに適したパワーコンディショナ機器です。

(注3) 各種 V2H (Vehicle-to-Home) システム：電気自動車(EV、PHV)への充電機能に加えて、自動車側に蓄えられた電力を家庭で使える電力に変換する機能を備えています。自動車の持つ大容量の蓄電池を活用し、各利用シーンに合わせた最適な電力の利活用を可能とするシステムです。

今後も当グループは、中長期経営計画【炎のスクラム】で掲げる【車と家を地球環境に資するものづくりでつなぐ】に基づき、公器としてお客様の発展に寄与し社会の豊かさに貢献するべく、世界十ヶ国十四工場二十六拠点総ての耀き疾走する傍楽仲間達みんなで、社長ものづくり方針【現場、現場、現場相手の立場に立つ、本当に立つ】を徹底、全身全霊連打連撃連戦猛進して参ります。

■本リリースに関するお問い合わせ先

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス株式会社 社長室 広報戦略推進部

TEL: 06-6302-8211 E-mail: PR1_INFO@dia-zbr.co.jp